

学ぶこと・考えること

地理・環境コース

ちょっと難しい話から始めましょう…。

私たちが住む世界は、空間的な広がり（空間軸）と時間の広がり（時間軸）とによって構成されています。前者が地理学の、後者が歴史学の研究対象となります。ものごとの空間的な広がりの中には、普通性・特異性、規則性や方向性があったり、あるいは偏りを持っていたり、広がりそのものに限界性があるなど、さまざまな興味深い現象がみられます。こうした空間的広がり、あるいは分布を研究対象とし、それに関する理解を深めつつ、そのメカニズムや法則性を検証する、というのが地理・環境コースで学ぶこと・考えることです。

私たちが住む世界の空間的広がりが「環境」そのもので、環境とは単に自然環境を指すのではなく、社会・経済・文化の広がりなどの人文的要素も含む言葉です。本コースでは、自然的・人文的環境の実態やその問題に対し、「地理学的な見方・考え方」を中心にして、学び、考え、取り組んでいます。



いろいろな物事の地理的・空間的な広がり注目して、そのパターンや特徴を捉え、それが作り出されるメカニズムや、広がりや違いから生じる地域間の差異などを読み解き、考察するのが、「地理学的な見方・考え方」をするということです。

地理的・空間的な広がりはごく簡単に実感して、それについて考えることができる場合もある一方、地理学的素養が蓄積されて、ようやく見えてくる場合もあります。また、もともと見えないものについては、観測やデータ収集によって、初めて、広がりや把握することができます。

地理・環境専攻では、自然環境科目群、人間環境科目群、地域環境科目群の履修を通じて地理学的素養を育み、観測やデータ収集の方法・考え方を情報調査科目群や調査研究科目群の履修を通じて学んでいきます。それらを通じて、入学生が「地理学的見方・考え方」ができるようになることを大きな教育目標としています。

◀長野県蓼科にて標高に伴う森林植生等の変化を観察

地理学的な見方・考え方とは？



「地理学的な見方・考え方」を机上だけで身につけることは困難です。また研究対象が、「環境問題」など、今まさに動いている場合であればこそ、学んだ知識がすぐ陳腐化してしまう場合もあります。新たな知識をもとにあらためて考えていく反復作業が必要で、それを身につけるためには、自らデータを収集し、処理・加工し、それらをもとに考える実践が必要です。

地理・環境コースでは野外実習科目（必修・選択）を設け、実践を通じて作業方法を体得できるようにしています。地理学野外実習A（1年次）と地理学野外実習B（2年次）は1泊、地理学野外実習C（3年次）は3泊の泊まり込みの実習（いずれも必修）で、日本各地に出かけて現地（フィールド）で実習を行います。また、地理学野外実習D（選択；2年次～）が新設され、より実践を深めたい人はそれも履修できます。情報調査科目群の科目もその多くが、自らデータを収集・加工・処理し、それをもとに考えていく、室内・外での実習を中心とする科目です。

また、授業とは別に海外研修が開催されることもあります。

◀城ヶ島にてドローンによる空撮・実測デモンストレーション

机上の学問だけではダメ

地理学的な見方・考え方を社会で生かす

身につけた「地理学的な見方・考え方」は社会でも役に立ちます。生きていれば、さまざまなレベルの「未曾有」・「想定外」の問題が起こります。その時もその問題に関するデータを収集・加工・処理し、それをベースに考え、問題に立ち向かわなければなりません。距離・濃度・影響などの観測・データ収集がまず必要なこともあります。

そうした「現場」（地域）で役立つ能力（見方・考え方）を身につけた証として「地域調査士」（財）日本地理学会認定という資格があります。地理・環境コースで学ぶと、比較的容易に、その資格を取ることが可能です。

また国士館大学文学部では地理・環境コースでのみ取得可能な資格として、「GIS 学術士」、「測量士補」があり、社会の即戦力としての能力を磨くことができます。

もちろん、教員免許、社会教育主事、博物館学芸員、図書館司書、司書教諭などの免許も、所定の条件を満たせば取得が可能です。

▶調査結果をミーティング
▶伊能図展「伊能図がやってくる～伊能忠敬が歩き・描いた江戸時代の日本を見る・歩く!～」開催



地理学的見方・考え方を学んで書かれた卒業論文 地理・環境コースで学べること、研究できることの実例

- 地方鉄道の現状と課題 —三岐鉄道三岐線を事例に—
- 湘南イメージの変遷について —藤沢・鎌倉・茅ヶ崎のタウン誌をテキストとして—
- 青山通りにおけるネイルサロンの立地と料金の地域差
- 東京都における保育サービス需給の地域差の実態と要因
- 西日本太平洋側における多雨地域の降水特性
- 松川浦におけるアマモ場分布の経年変化 —UAVによる接近画像と空中写真判読をもとに—
- 南アルプスにおける標高傾度に伴うダケカンバ林と樹形の変化
- 成田空港におけるアクセスの現状と課題 —主として等時線図による分析—
- 認知地図に基づく東京の山の手と下町の範囲
- 千葉県市川市・浦安市におけるコインパーキングの立地と利用
- 地方都市における宿泊産業の新陳代謝 —静岡県沼津市を事例に—
- 沖縄県北部の東海岸域における海草・ホンダワラ藻場の長期変動について
- 千葉県野田市における風水害対応避難場所と避難経路の検討
- 関東地方中南部におけるスギ（Cryptomeria japonica）衰退の現状とその要因



地理学教室の専任教員と研究分野

	Hasegawa Hiroshi 長谷川 均 教授(博士(理学)) 自然地理学、リモートセンシング、GIS		Isogai Tatsuhiro 磯谷 達宏 教授(博士(農学)) 植生地理学、生態環境論
	Okajima Ken 岡島 建 教授(博士(地理学)) 歴史地理学、交通地理学		Kato Koji 加藤 幸治 教授(博士(地理学)) 経済地理学、地域経済、サービス産業論
	Uchida Yorifumi 内田 順文 教授(博士(文学)) 地理的イメージ、文化地理学、都市地理学		Sasaki Akihiko 佐々木 明彦 教授(博士(理学)) 地形学、気候学、雪氷学、防災論

CURRICULUM

地球・地域が抱える諸問題

※ 科目名の「*」は必修科目を示します。

地理学的素養の蓄積（人間環境科目群、自然環境科目群、地域環境科目群の履修）、地理学的方法の体得（情報調査科目群、調査研究科目群の履修）によって、地球・地域が抱えるさまざまな問題に迫ります。

地方都市の問題

世界の中では豊かな日本。しかし、どこの地域も同じように富の恩恵を享受しているわけではありません。豊かな日本の中で、地方都市の工業や商店街の衰退が叫ばれるのはなぜでしょう。ここでも地理学的見方・考え方が重要です。どの地域も同じようになるのなら地理学はいりません。

グローバル化

近年のグローバル化は「世界はひとつ」ということを、これまで以上に我々に実感させてくれます。それは良い面・悪い面の両面において、また人文環境・自然環境の両面においてです。影響の大きさも場所によって違います。まさに地理学的な見方・考え方が重要になる問題です。

環境問題

環境問題にはさまざまなものがありますが、それらは問題によってそれぞれ違った地理的な広がりを持っています。またその考察には分野横断的なアプローチを必要とします。地理・環境コースでは、大気、土地、生物、人間などのさまざまな「環境問題」について、地理学的な見方・考え方を軸に、取り組んでいます。

卒業論文*

体得してきた知識や手法を生かしてまとめあげるのが卒業論文です。まさに地理学的見方・考え方の集大成。現代の地球・世界・地域が抱える諸問題の解決にむすびつく論文の作成を目指します。



調査研究科目群



実習あるいはゼミ（演習）形式で地理学的見方・考え方を実践的に養います。野外実習は学生同士、学生と教員の交流の場でもあり、充実した学生生活の一コマとして多くの学生に記憶されるでしょう。

- 地理学野外実習A*
- 地理学野外実習B*
- 地理学野外実習C*
- 地理学野外実習D
- 地理学入門ゼミ*
- 地理学演習1*
- 地理学演習2*
- 地理学演習3*
- 地理学演習4*



地域環境科目群

人文・自然の2つの系統地理学の応用として、各地域の地誌を学び、地理的現実を総合的に捉える視角を学びます。

- 日本の地誌
- 日本の景観と社会
- アジアの環境と人間生活
- ヨーロッパの環境と人間生活
- 北アメリカの環境と人間生活
- オセアニアの環境と人間生活
- 熱帯・乾燥地域の環境と人間生活



情報調査科目群

実習形式の授業を中心に、地図や測量、GIS、リモートセンシングの手法を基礎からはじめて、応用に至るまでを学んでいきます。実践的能力が身につきます。



- 地域調査法*
- 自然環境調査法*
- 地図学
- 地形図判読法
- 地図製作法
- 空中写真判読
- 環境データ分析法
- 社会調査とデータ分析法
- 計量地理学
- 環境リモートセンシング
- 環境リモートセンシング応用
- 地理情報システム入門
- 地理情報システム
- 地理情報システム応用
- 測量学1
- 測量学2
- 測量実習1
- 測量実習2
- 測量実習3

人間環境科目群

人文地理学に関する専門科目です。歴史、交通、経済、社会などの地理に関して、講義を通じて学びます。

- 地理学総論*
- 人文地理学入門*
- 江戸東京の歴史地理
- 交通の発達と環境
- 経済と人間生活
- 世界の社会と経済
- 食と農の地理学
- 農村空間と社会
- 都市空間と社会
- 社会環境と人間

- レクリエーションと環境
- 旅の地理学
- 環境イメージ論
- 民俗と文化の地理学
- 環境と文化
- 持続可能な地域づくり
- 地球環境保全論
- 歴史景観と環境
- 地域計画と住民参加
- 地域の環境と防災



史学系科目群

- グローバルヒストリーA・B
- 国際交流の歴史
- 産業と流通の歴史 など

教職系科目群

- 地誌
- 人間生活の地理学
- 現代地理学と自然環境 など

自然環境科目群

自然地理学に関する専門科目です。地形、気候、植生、防災に関する地理を主に講義を通じて学びます。

- 自然地理学入門*
- 東京の自然環境
- 地表環境の生い立ち
- 防災の地理
- 日本の水環境
- 沖縄の自然環境
- グローバルな気候環境
- 地域の気候と災害
- 第四紀の自然史
- 日本の植生環境
- 地域の生態環境
- 地生態の地理
- 自然保護と環境アセスメント



実習・演習などで手法を体得し調べ考える

講義などで知識を深め基礎を固め考える

人文地理学的アプローチ

自然地理学的アプローチ